

■朝倉孝景 2 越前国の戦国大名。安定した政権のもと、諸国の紛争、将軍家の政争に援兵し、公家や文化人受入れに努めた。

あさくらたかかけ

明応の政変・1493＝ 朝倉貞景の嫡男に生まれる。母は斎藤利国の娘。幼名は孫次郎。

..... 1502＝ 9歳：

義植入京将軍1508＝15歳：京都にあって、飛鳥井流蹴鞠の免許状を受けるなど、応仁の乱後、越前一乗谷に、多くの公家や文化人が下向してくるなか、京の文化に憧れを持ちながら育ち、

遣明使・・・1511＝18歳：

早雲相模攻落1512＝19歳：父貞景が鷹狩の途中に急死。家督を継ぎ、第四代国主となる。

曾祖父孝景にあやかっ、"孝景"と名乗った。便宜上、法名から"宗淳孝景"と呼んで区別する。

以後、下向する都人は一気に増大、

..... 1515＝22歳：おそらく越前の動向を探るため、連歌師宗長が来訪、各屋敷に招かれて、連歌の座、

義興遣明船・1516＝23歳：\*将軍足利義植より、白傘袋および毛氈鞍覆を免ぜられ、正式に守護の地位にあることが内外に示される。

..... 1517＝24歳：前年の丹後国の守護と抗争して支配権を掌握した守護代延永氏が、若狭国守護で甲斐武田氏と同族の武田元信の家臣逸見氏と組んで、若狭に侵攻、幕府の要請で、元信の女婿でもある朝倉宗滴を軍奉行として、若狭さらに丹後に出兵し、鎮圧するが、以後、海賊の蜂起や家督争いなどで、武田氏衰亡の兆しが濃くなっていく。隣国美濃で、守護土岐政頼を擁する母の実家斎藤利良が、正頼の弟頼芸を擁する長井利良に敗れ、

義興周防備国1518＝25歳：斎藤利良が、土岐頼武と共に、越前国へ亡命してくると、

..... 1519＝26歳：大徳寺山門再建援助を目的に、宗長が再訪。実弟朝倉景高に兵3千を率いさせ、美濃国に出陣。正木合戦と池戸合戦に連勝し、両者を復帰させる。

..... 1520＝27歳：

足利義晴将軍1521＝28歳：この年、細川高国に擁立された足利義晴が将軍になる。

寧波の乱・・・1523＝30歳：宗長が再び越前に下向し、朝倉家臣らと、連歌の座。

守護京極氏とその家臣浅井亮政が反目、京極氏側の六角氏に攻められた浅井氏から救援を求められ、朝倉教景宗滴に軍勢を率いさせ、近江小谷城へ出陣し、六角氏と浅井氏の間を調停。なお内紛の続く美濃では、西村勘九郎の勧めで、頼芸が政頼を急襲して勝利、政頼は一乗谷に蟄居し、土岐頼芸が守護になるとともに、その執権になった西村は斎藤道三と名乗り、のちに、美濃一国を奪うことになる。

以後管領不在1526＝33歳：細川家の内紛から、高国の家臣が、阿波の細川晴元の支持を受けて、丹波で挙兵、幕命で、諸大名とともに、丹波攻略に参陣するも、幕府軍は敗退、呼応して、三好一族が四国から進撃してきたため、

..... 1527＝34歳：実弟景高を越前大野郡司に任命。京都を脱出して、近江に座していた将軍義晴の、戦勝後の褒美を前提とした再三の求めに応じ、朝倉宗滴・朝倉景紀ら率いる兵1万を出兵。高国らと合流して洛中に進軍し、勝利。義晴の京都復帰を実現させ、感状御内書も下付され、その後は休戦状態になるが、

大内義興没・1528＝35歳：和睦ならず、撤兵。義晴も近江朽木に退却するが、約束どおり\*将軍足利義晴の御供衆に加えられる。

..... 1529＝36歳：一乗谷における儒学の興隆に大きく貢献することになる儒者清原宣賢が初めて下向し、「日本書紀」を講じた。高国が自ら一乗谷へ下向してきて、京への軍勢派遣を要請するも、応じず。

天王寺合戦・1531＝38歳：高国は自害。細川晴元が管領になる。朝倉宗滴、敦賀郡司職を養子朝倉景紀(孝景の弟)に譲る。加賀の一向宗では、現状維持派の最高首脳者"三山の大坊主"に対し、越前を追われて寺々は、加賀に下向し実権を握る本願寺家老下間兄弟と結んで、復帰を狙っていたが、ついに、一揆同志の戦端が開かれ(享祿の錯乱)、当然のごとく、前者を支援するが、後者の勝利に終わって、前者が、越前に逃亡してくる事態になり、

大和一向一揆1532＝39歳：六角氏と朝倉氏の間で「未代迄」とされる密約が交わされている。一乗谷で面倒を見ることになるも、やはり無理で、彼らが教景(宗滴)を奉じて加賀に再攻撃しようとするも許さず、

..... 1533＝40歳：一子義景誕生。彼ら単独で加賀に侵攻するも敗北し、退却。翌年も失敗し、望みは絶たれる。この結果確立した、一向宗の加賀領国体制は脅威となり、国境に關所を設けて厳しく遮断することになる。

..... 1534＝41歳：晴元に擁立された将軍義晴が再び入洛すると、それを祝して、太刀一腰、馬一疋、青銅三千疋を贈る。

..... 1535＝42歳：越前に下った富小路資直から歌の指導を受け、贈答歌を交わしている。高位の者にのみ認められる塗輿御免となり、再び、太刀一腰、馬一疋、鷹眼一万疋を贈り、10年前に踐祚した後奈良天皇に、後北条、大内、今川氏ら大大名に並んで、一万疋を献上し、ようやく即位礼が施行された。

天文法華の乱1536＝43歳：医学者谷野一栢に命じ、明の医書「八十一難経」を校正・出版させている。土岐兄弟の守護職を巡る闘争に関与、斎藤道三を攻める斎藤彦九郎に加担。大野郡で最後に残っていた穴間城を、朝倉景高が攻略。天文法華の乱には、若狭武田氏とともに、将軍家警固が命じられ、

銀輪輸出始・・・1538＝45歳：\*ついに、幕府相伴衆に列し、礼物の献上品の豪華さで目を見張らせ、名実ともに、越前国主の戦国大名として君臨するに至る。

..... 1540＝47歳：朝倉景高が上洛、幕府要人や公家の人脈を頼り、反孝景の運動を画策するが失敗すると、朝廷へ御所修理料百貫文、将軍家へ五十貫文を贈った上、幕府へ願ひ出て、景高を追放。武田信豊の庇護を受ける。その後も本願寺、一向一揆、若狭武田氏、尾張斯波氏らと反孝景を画策する。

今川義元登場1542＝49歳：儒者清原宣賢の二度目の越前来遊、

鉄砲伝来・・・1543＝50歳：続いて三度目の来遊。景高は本願寺との同盟交渉を拒否され、若狭から撤退し、西国へ逃れる。

..... 1544＝51歳：美濃国支配を画策する執権斎藤道三を取り除こうと、土岐頼芸から援軍を求められ、尾張国の織田信秀と共闘した朝倉宗滴が稲葉山城下を焼き払って撤兵したが、道三に夜襲を掛けられ1万以上の死者を出して退却(加納口の戦い)。以上見てきたように、対外出兵の大半は、幕府の要請に答える畿内や周辺諸国のもので、朝倉家自体の領土拡大はほとんど無かった。

..... 1545＝52歳：儒者清原宣賢の四度目の越前来遊、「蒙求」「中庸章句」を講じる。

足利義輝将軍1546＝53歳：翌年にかけて、儒者清原宣賢が五度目の越前来遊、私宅や寺院など、一乗谷の方々に儒学を講じた。

勘合船終・・・1547＝54歳：道三は、ついに頼芸を追い払い、美濃国を支配するに至っている。

上杉謙信登場1548＝55歳：\*波着寺への参詣の帰りに、頓死した。嫡男延景(のちの義景)が跡を継いだ。

禅僧の人物評によれば、治世よろしく、兵法に厳しく、詩歌に妙で、とくに、歌道に熱心であったという。戦の多くは、朝倉宗滴が取り仕切り、一族の主なもの名代として派遣、自ら出陣することは無いため、武将としての力量は未知数である。仏道にも熱心で、曾祖父孝景の菩提寺の英林寺、同じく父貞景の天沢寺、自らの性安寺を創建し、五千余巻之毘盧藏を建てて法雲堂と号し、遊樂寺を建立、炎上した安居弘祥寺や心月寺も再興している。